

赤水の功績 理解深める

高萩で勉強会

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全國地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）に関する勉強会が5日、同市高萩の市立中央公民館で開かれた。生涯学習グループ「高萩のぞみ大学」の受講生約20人が、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長による講演などを通し、郷土の偉人への理解を深めた。

佐川会長は、赤水が作成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を「伊能忠敬とは違う測量はしていないが、情報を編集し非常に緻密」と紹介。「地図を大衆化

し、世界の中で日本がどこにあって自分がどこに立っているかを、江戸時代の人たちに初めて教えたのが赤水図だ」と解説した。写真。参加者は、高萩市が製作した赤水の生涯と功績を伝える動画も鑑賞した。動画は赤水役を和泉流狂言師の和泉元彌さんが務め、動画投稿サイト「ユーチューブ」の同市公式チャンネルで公開している。

